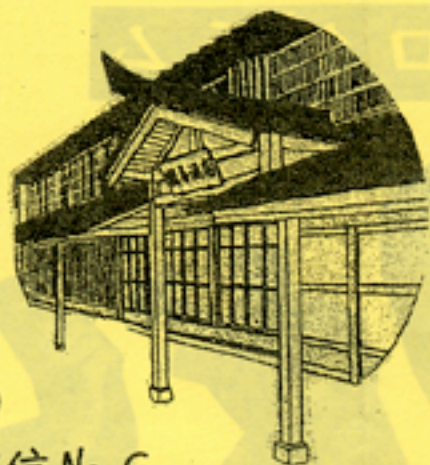


まちの風



通信 No. 6

NPO 関善賑わいの屋敷通信 H18.6.20

国の文化審議会(阿刀田高会長)はこのほど、鹿角市花輪の「旧関善酒店主屋」や秋田市新屋表町の「森九商店主屋」など計4件(2カ所)を登録有形文化財に選り、文部科学相に答申した。認められれば、県内の登録有形文化財(建造物)の累計は141件(54カ所)となる。

選ばれたのはほかに、
 森九商店の「工場」と「仕込蔵」の2件。
 旧関善酒店主屋は1905(明治38)年に建てられた。木造平屋一部2階建てで、建築面積は590平方メートル。上質な近代和風建築で、通り土間上部の吹き抜けの架構の評價が高い。
 関家は1858(安政4(大正3))年に建てられ、森九商店主屋は1911年に創業した遊り酒屋で、1983年の廃業まで地域の経済発展に寄与したとされる。

審議会 旧関善酒店主屋など
答申

国の文化財に4件

特別寄稿

渡部家史料館
前嶋 万人民

『右民家に学ぶ』

5月5日鹿角市教育委員会より「登録文化財登録証」を頂き、ここに当渡部家は、鹿角市で第1号の登録文化財になったわけで、感慨も一入であった。

少し遅れ「関善商店」が認定され、ここに鹿角市の右民家2軒が全国に宣伝されることになった。

この2軒は、いずれも明治中期のものだけれど、一方は武士の誇りを考えさせ、一方は、豪商の矜持がこれと思わせる建築物である。

渡部家は見かけはただ大きな農家風であるが、中は太い角材で組まれた合掌造り、檜を柱としてふんばんに

用い、大きな鴨居が豪壮感を漂わせる。

関善商店はつい先の時代の花車輪の街並みもかくあったであろう「こもせ(みせ)」の並りで、道行く人々を風雪から守った

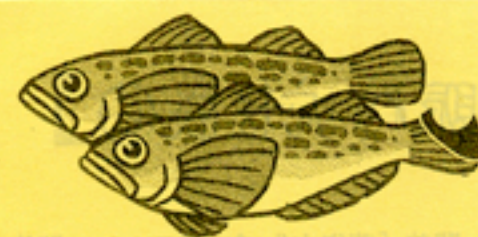
(H18.3.25. 朝日新聞より)

(2) 名残を思い浮かばせ、かみ派手さのよい、控えめは表面とは違い、内部は「貫構造」と呼ばれる小屋組みを訪れる人々を驚かす。

広い土間に面した帳場、大勢の奉公人の喧騒が伝わりくる「シヨイ」の艶やかに磨きこまれた板の間。深閑と記憶かな人声に添え、奥座敷から此の屋の女将さんが出てくる様子である。

「奥座敷」「中座敷」「店座敷」の夫々に工夫を凝らした家具に感じさせられ、ため息をつかせる。特に、障子の組子模様は、当時の職人の腕の確かさを思わせ、お金に糸目をつけずに、これらを作らせた関善次郎の心意気を感じずにはおられない。

武士として戊辰の役を戦った渡部文蔵、明治維新の混乱期に大店を守りぬいた関善次郎。学問に励み、教養を養った二人が、感性の豊かな傑物であったことは間違いない。



開館時間 10:00~17:00
 休館日 木曜日(市日のとき翌日)
 入場料 無料(保存協力金300円)

平成18年度 会員受付中

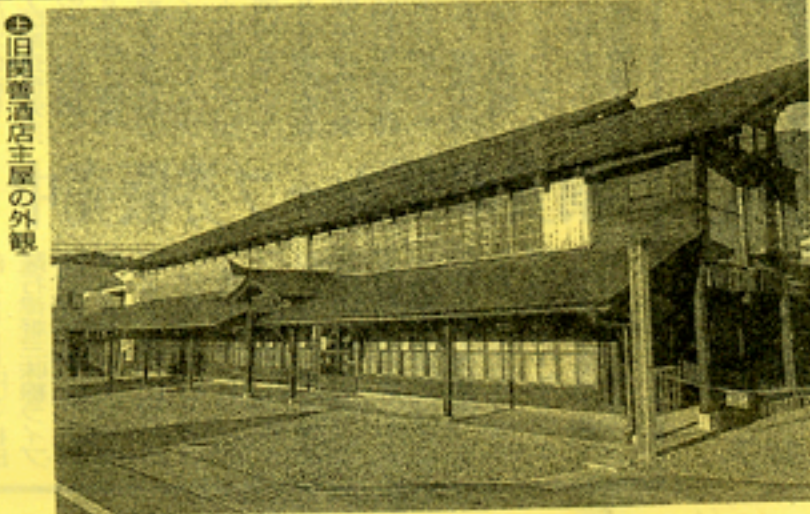
- ◎ 正会員 5,000円/1口
- ◎ 賛助会員 2,000円/1口

【この一冊】

金の星社
 『ハッピーバースデー』 青木和雄 共著 吉富多美
 「生きたまよふかった」母の言葉で傷つき声を失った少女とその母が再生していく物語である。100万人が泣いたという。少なくとも、僕は素直に泣けた。人は変われる。そのために学ぶのだと少女は言う。まず、泣いてみろ下れ。

【この一本】

29回 日本アカデミー賞12部門受賞!!
 「ALWAYS 三丁目の夕日」
 270万人が感動した映画である。携帯もパソコンもTVもなかったのに、どうしてあんなに楽しかったのだろうか? ちょっぴり泣かされた。遠い日のほつがしさに.....



旧関善酒店主屋の外観

特定非営利活動法人
NPO 関善賑わいの屋敷
 〒018-5201
 秋田県鹿角市花輪字上花輪85
 TEL 0186-23-7799
 E-mail sekizen@s50.xrea.com
 URL http://sekizen.s50.xrea.com/